

新発田青少年健全育成市民会議だより

は ば た き

21 世紀も市民みんなで手をたずさえて

新発田市、加賀市子ども会交流会

(平成18年8月18日～20日)



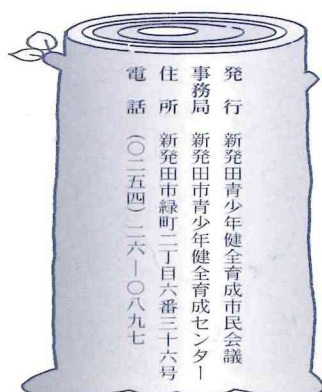
楽しい交流



出発のミーティング



松井秀喜記念館



発行 新発田青少年健全育成市民会議
事務局 新発田市青少年健全育成センター
住所 新発田市緑町二丁目六番三十六号
電話 (〇二五四) 二六一〇八九七

ごあいさつ



新発田青少年
健全育成市民会議
会長 臼井 茂夫

子どもたちが安心して暮らし健やかに育つには、大人との温かい愛情に支えられた信頼関係が第一条件であります。

イジメを受けている子が誰にも相談できなくて独りで悩んでいるケースがよく報道で取り上げられます。学校の先生は真剣に聴いてくれないし、親に話してもパニックを起こすばかりで頼りにならないというところがある子どもが眩いていました。大人が子どもに信頼されないとしたら、それこそ万事休すです。

子どもをしつかり見守り、考えを受け止めて聴いてやる、そして思いを共にしてやることが信頼関係を築く上で極めて大事であると言われています。

子どもたちが何を考え、どんな悩みを抱えているか察知し、生活の実態を把握して適切なアドバイスをしてやることは大人の役目です。「大人が変われば子どもも変わる」と言われるように、子どもが成長するにはまず大人が成長することが大前提であります。

今市民会議では、地区健全育成協議会等でワークショップ、講演会、パトロール活動などを通して情報交換や問題意識の共有を図り、関係機関の連携を深めて相互に学び合う輪を広げています。

ますます複雑化する青少年問題に適切に対処するためには、私たち大人が子どもをもっと知り、子どもと直に向き合うことが大切であると痛感します。

「青少年健全育成市民一斉パトロール」出発式、啓発活動を行いました。

11月3日(祝日)、地域交流センターで出発式を行いました。(約200名)

来賓の新発田市教育長(代理、築井教育部長)、新発田警察署長の激励をいただいた後、校区代表による健やかな子どもを育てる地域づくりなどに向けた決意表明を行いました。

終了後、市内統一3会場(カルチャーセンター、ジャスコ、コモタウン)と各地区で、啓発用チラシやティッシュを配布しました。



出発式

「市民一斉パトロール」 の出發式にあたって

新発田警察署長

目黒 信雄

最近の犯罪情勢は、親が子どもを殺したり、子どもが親を殺したり、金融機関を狙った強盗や強制わいせつ事件などの重大事件が後を絶たない状況です。

また、刑法犯検挙人員の三四割(街頭犯罪の六〇七割)を少年犯罪が占めているほか、少年が被害者となる児童虐待事案、買春事件が増加し、非行と被害防止の両面において厳しい状況

にあります。

少年犯罪等の背景には、家庭教育機能の低下、地域の少年育成機能の低下、大人社会の規範意識の低下等、様々な要因が複雑に絡みあっているものと思います。

管内の少年の検挙、補導状況は、九月末現在で百二十人となっており、前年同期に比べ、三十人(三三%)増加しております。罪種別では、万引きや自転車盗等の初発型の非行が約七五%を占めております。学種別では、高校生が全体の五〇%、中学生が全体の約三〇%であり、高校生で全体の八〇%を占

補導しながら思うこと

市少年補導委員

大倉 繁良

十年前、新発田市少年補導委員になりました。その後、学校は五日制体験学習と子ども達の生活も変わってきました。街には筆記用具を持った小中学生の姿が見られるようになりました。

月二回ほどの市内巡回、補導を行っています。初めは、主に街の中を徒歩で巡回しました。育成指導車が導入されてから巡回の範囲も拡大しました。

めております。

また、少年グループによる暴行、傷害事件等も発生しており、悪質、粗暴、低年齢化の傾向が見られます。

少年の非行防止や健全育成は、警察と関係機関等との相互の連携が極めて重要であり、実情等を十分に把握し、「大人が変われば、子どもも変わる」という共通認識の上に立つて、各種活動に活かしてゆくことが必要であると考えております。

「子どもたちのすこやかな育成」という目標に向かって、一層のご尽力をいただければ幸いです。

主に、自転車の二人乗り、歩道を走る自転車に注意したり、パチンコ店、カラオケ店の巡回などでした。パチンコ店で幼児連れの親の姿はほとんど見られなくなりました。自転車の二人乗りは相変わらず多いといえましょう。一時、警察で違反切符を出して、少なくなりましたが、またもとにもどつたように思います。

補導時、腕章を付けていると声掛けをできるのですが、付けていないと変なおじいちゃんに間違われてしまいます。

腕章がなくとも声掛けのできるような世の中になつてほしいものです。

青少年健全育成講演会へ要旨

平成十九年二月二十日

演題

『子どもたちが生きる力。考える力をもった人に育つために』

講師

敬和学園高等学校長 小西二日夫先生



「いい子」の持つ問題

私たち親は、自分に心配をかけない子は問題がないと考
えてしまうようです。しかし、
問題がない家庭がないと同じ
ように、問題のない子がいな
いわけではありません。

手間ひまがかからない子は
安心と決めて、その子の心の
中まで考えるということをし
ていないのではないでしょ
うか。

また、「いい子」のまま、し
っかり叱られることもなく大
きくなって、高校へ来たと感
じさせる生徒が少なくありま
せん。

叱るとはどういうことか。
これは子どもと真正面から向
き合うことです。親として叱
る、言いかえれば、親として
この線までは譲らない、親は
壁だと思えます。

壁があるから止まることが
でき、壁にぶち当たって、ど
こまでやっていいのかの判断
を学ぶことになるのです。
叱られる時に叱られて、受
け止める力が備わっていくの
です。

自立する力・ 生きる力を育てる

自立というのは、三つの要
素から成り立っていると言わ
れます。一つは自分で考える
こと。自分のことだけでなく、
自分の周りのことを考えるこ
とです。

二つは、その考えに基づい
て行動することです。三つ
は、その行動と言葉に責任を
持つということです。

最近、「生きる力」を持たな
い若者が増えたと言われます
が、そのことは、この三つの
要素が身につけていないこと
なのです。

脳の生理学者によれば、こ
の「生きる力」は、頭脳の前

の部分の前頭前野でつくられ、
この部分が活発に働いている
人は、生きる力がすぐれている
と言われています。

ところが、今は便利で豊か
な社会となつて、自分がしな
くても何とかやっていける、
特に少子化になつて大事にさ
れるという状況の中で、今若
い人たちは、前頭前野が働き
にくい、活発化しにくい状況
におかれているのです。

そこで大事なことは、前頭
前野を意識的に働かせる教育
ということになります。

私の学校のことを例にとつ
てお話をさせていただきます。

私の学校では、週一回の
「労作」つまり労働と作業の時
間を設けて身体を動かすこと
や、美術、技術とか音楽を重視
して創作活動を促すとともに、
行事運営にも生徒が考える、
行動する、責任をとることを
基本とする、試行錯誤の経験を
大切に活動を進めております。

また、人と人との会話、直
接的なコミュニケーションの
場面を促すために、補習や選
択制の力リキユラムを含めて、
自分に関心のある授業をとら
せたり、クラスの人数も少人
数を図るなどの工夫を進めて
います。

使命(ミッション) を育む

子どもたちの学習、勉強の
目的や動機が、自分の幸せの
ためだけではなく、例えば、
他者のため、この世のために、

社会のためにと変わったとき
に、呼び方も変わります。そ
れが、「ミッション」です。日
本語にしましたら「使命」で、
命を使う、使命感の使命であ
ります。

NHKテレビに「プロジェ
クトX」という番組がありま
した。戦後の画期的な事業を
実現させた無名の日本人が主
人公で、何とか成功させたい
という使命感が、難題や挫折
を解決していく力になったこ
とが語られていました。

教育においては、「ミッシ
ョン」ということに、大きな意
味があります。他者のために
自分の命を使う生き方が、実
は子どもたちの生きる力を引
き出すことになるのです。
他者のために自分の命を使

～講演会の感想～

市民会議常任理事(紫雲寺地区)
比企 広正

子どものくせに、かたや、
もう大人なんだからと言われ
る年代が高校生。矛盾した言
葉の中に高校生が置かれてい
る現実がある。しかし、この
年代は使命感(ミッション)
を求めている。他者のために
自分の命を使う生き方が、自
分の生きる力になる事を、大
人が教えないとばならない。
その大人が子どもたちの憧
れにならないのは、使命感を
持たない大人が多いからだ。
大人が変われば子どもも変わ
る。背中では語れる大人になら
なければと心に誓った。

市民会議常任理事(豊浦地区)
皆川 美枝

講演の終わり頃、先生は、
子ども達もミッションを求め
ていると言われました。私
自身、使命感をもつて生きて
いるだろうか? 胸を張って
自分の姿を子どもに見せられ
るのか? 不安になりました。
子ども達が人として育つ
ために何をしなければならな
いか、大人として、どんなこ
とを、どんな関わりをしなけ
ればならないか、真剣に考え
子ども達としっかりと向き合っ
ていかなければと強く思いま
した。
ありがとうございました。

うという生き方が、結局は自
分の生きる力になると考えら
れます。
今の世間を全体的に見たと
きに、なぜ、大人たちが大人
らしくないのか、子どもたち
の憧れになつていないのか、
さらに、我々は、どれだけ使
命感を持つて生きているのか。
つまりミッションを持たな
い、そういう人たちが多いと
感じています。

我々が、我々自身として、本
当に人間らしく成長していく、
その中で子どもたちも一緒に
成長していくのであり、「考
える力」「生きる力」を持つ存
在になつていくのだというこ
とを、あらためて思われます。

大人が変われば、子どもも変わる

- ◆ 市民会議では、「大人が変われば、子どもも変わる」を基本としています。
ここでは、子どもたちから学ぼうと、子どもたちが、「大人たちや大人たちの社会をどうみているか」「大人たちの姿から、何をどのように感じているか」を述べてもらいました。



第一中学校区(あいさつ運動)

旅先での出会い

七葉中学校

一年 五十嵐 勇輔

僕は今まで色々な人と出会ってきました。その中でも旅行中や旅先での出会いは忘れられないものばかりです。夜行列車のロビーで出会って話しこんだ人、なんとなく入った食堂のおばちゃん、列車で向かい側の席にすわった人など…。

その中で一番に心に残った出会いは、日出谷駅の出会いです。

その出会いは僕が小学五年

の春、盤越西線を走るSLに乗っているときでした。阿賀町の日出谷という駅に着いてしばらくすると、老人用の三輪車に乗ったおじいさんが、僕に無言でお茶をくれました。

僕はあやしいと思いました。その人は運転手や車掌の人たちに、いつもお茶を差し入れている人だったのです。

それから数ヶ月間、その人は僕がSLに乗っていると必ずお茶をくれました。

僕はこのとき、人のぬくもりに触れました。そして、こんな大人が多くのなかで、こういう人がいるということ、忘れてはいけないという心から思いました。

大人の姿

第一中学校

二年 寺崎 大倫

今の大人はモラルが低いと思います。

歩きたばこなど改善されているものもありますが、まだ問題はあります。

例えば、最近是不二家の問題など大人の不祥事が多いです。ミスをするなどというのは無理かもしれませんが、それを隠すこと、ごまかすことは本当にいけないことだと思います。

社会の中心となる大人が

私が思う大人社会

加治川中学校

三年 高澤 聖良

最近の社会の出来事をみなさんはどう感じていますか？

本当にこんな社会でいいのでしょうか？

一、バラバラ殺人事件、親の虐待、子どもの家庭内暴力が毎日のように起きて通しているのは、自分のことしか考えておらず、命を大切にしないことです。

こんな社会がお手本では、子供達の心は素直に育っていきません。

世の中は機能しなくなっています。

大人は子どもに何かと言いますが、大人がしっかりしていなければ子どもも言うことを聞く気になれません。

僕はしっかりした、ミスをごまかしたりしない大人になりたいです。大人の姿を見て、僕たちは成長していきます。

だから大人の人には、「もっとしっかりしてください。」と言いたいです。

僕たちは、やるべきことをしっかりやり、未来の社会を担える大人に成長していきたいと思っています。



(おはようございます)

なかった子どもが大人になれば、さらにその後の世代もおかしな悪循環になると思います。そんな社会にならないために、これからの社会には、優しい心を持つこと、家族や社会のために、役に立とうとする強い意志を持つことが必要であると思います。

私は中学校三年間でたくさんの人と出会い、いろんな考え方に触れ、人と関わる楽しさを学びました。また、一人一人が個性を持っていて、大切な存在ということも学びました。

この貴重な三年間を大切な財産として、思いやりがあり、誰もが認める大人になりたいと思います。



七葉中学校区（グランドゴルフ）

私欲に負けずに

新発田南高等学校

二年 井上 いづみ

「大人」という言葉を聞くと、最初に「汚い」というイメージが浮かんできます。

最近起きた不二家の事件では、会社の儲けを最優先にして、お客に賞味期限切れの商品を売っていたことが大きな問題となりました。

そのことが発覚し、マスコミに大々的に取り上げられてもお、会社全体の責任ではなく、一部の社員のミス扱いとして、無理矢理隠そうとしていました。

た。

どうにかして隠しておきたいという気持ちは、理解できなくもないのですが、事件全体の解明が時間の問題となつていってもかわらず、意地汚く隠そうとする姿は、痛々しく思えてなりませんでした。

「大人」という言葉を辞書で引くと、「十分に成長した人」と書いてありました。一部かもしれないませんが、リーダーとなるべき人たちが、見た目ばかりの成長で、精神的に大人になつていないように思えてなりません。

私欲に負けないリーダーとしての大人になり、私たちの見本になつて欲しいと思います。

大人として

新発田商業高等学校

三年 本間 めぐみ

最近、飲酒運転が原因の事故が多発している。「少ししか飲んでいないから」とか、「近くまでなら大丈夫」という運転者の甘い考えが、このような事故を引き起こしているのだらう。

私は今、自動車学校に通っている。路上を走っていると、様々な危険に遭遇する。

例えば、前を走る自動車の急な進路変更や急停車、子どもの飛び出しなどだ。運転中には様々なことに注意を払わなければいけません。



紫雲寺中学校区（れんぎょうパトロール隊）

マスメディア

新発田中央高等学校

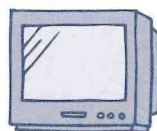
二年 齋藤 順

テレビや雑誌、新聞などのあり方に私は疑問を感じる。

今のマスメディアは情報を正確に伝えるという本来の役割を忘れ、発行部数や視聴率を伸ばすことだけを考えているように思えるからだ。

納豆にはダイエット効果があると捏造したテレビ番組、相撲の勝負は八百長だとの記事を載せた週刊誌、他社の記事をそのまま真似た新聞もある。

その事をよく自覚して、マスメディアは本来の役割を果たしてほしい。



できることから、大人から。

青少年の心を育てるキャンペーン



めあてをもつて輝く子どもたち

子どもたちは、若さをもつて夢を描き、めあてをもつて自らを磨き励んでいます。

スポーツ少年団 空手道場を訪ねて

五十公野の通りに面して立つ「陽明館」に入ると、道着姿の子どもたちが、稽古前のひとときをドッチボール遊びに興じていました。

やがて先生の号令で、一斉に整列、端座敬礼と黙想後、稽古が開始されました。

きりつと張りつめた場内に鋭い気合いが響きます。

中には、子どもと一緒にかけた「おじいさん」「おとうさん」が加わっている姿を見て、先ほどの子どもたちの作法の節度と重ねて、この道場で育てられる、子どもたちの心が伝わる思いでした。

指導に当たっている神田正明さんは、次のように述べておられました。

「江戸時代の寺子屋では、心を育てた作法は「江戸しぐさ」といわれ名が残っていますが、武道においても作法を基本として大切にしています。」

当時は、陽明学思想に基づいた実践の学問が盛んでありまし



「静」



「動」

た。この道場名も陽明学に因んで「陽明館」と銘々し、空手道スポーツ少年団も「文武両道」の実践をめざして、保護者、指導者と一緒に活動に取り組んでいます。

現在、選手の強化にも力を入れ、中学生（女子）、小学生（六年男子）二名が、全国大会に出場を果たし、練習にも熱が入っています。」

「はっけよい、のこった！」

加治川相撲連盟

この地域の伝統が子どもたちに受け継がれています。

加治川地区公民館前の土俵では、気合いの入った声が響きま

す。

昭和五十二年に発足したこの相撲連盟。現在は十三人の小中学生が熱心に練習しています。

全国わんぱく相撲大会に十一回連続で県代表として出場。国技館での大会を経験し、人間としての自信がつく子供達を見るのが一番うれしい、と指導者代表の中野長角さん。

加治川から横綱誕生も夢ではありませんね。

花のオアシス

「ながよし花壇」

大手町育成会では自衛隊旧入口前広場にある「ながよし花壇」

の管理、運営を始めて七年になります。花壇の構想、花の植付けは子どもたちと、水やり草取りなどは地域の大人の手で。となかなか大変ですが、市民の「花のオアシス」になればと喜んで取組んでいます。

昨年、市緑化振興協会主催の



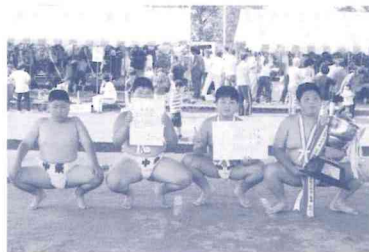
ミニシクラメンの鉢

花壇コンクールで優良賞を受賞いたしました。副賞でミニシクラメンを購入し、各家庭に配り、飲みを分かち合いました。オアシスにきてください。

「熱気」



「夢」



おわりに

市民会議が掲げ、皆さんに呼びかけてきた言葉は「大人が変われば、子どもも変わる」でした。

この呼びかけは、子どもは大人社会の姿をモデル（手本）として、自らの生き方を形づくっていくという基本を、皆さんとともに心がけていこうと、ねがうものであります。

「はばたき」の本号では、子どもたちの大人への鋭い視線を述べてもらいました。

また、小西二巳夫先生は講演の中で、大人たちの社会的態度として、「ミッション（使命感）の自覚」を促し、大人たちの姿が子どもたちにとって憧れの対象となるよう指摘しておられました。

心しなければと思います。

（槇坂 記）

編集部

弘智	宣正	坂本	槇原
さとみ	吉田	岸田	大川

